

## ICNP (R) (看護実践国際分類) ベータ 2 (日本語版) 発行にあたって

日本看護協会・専務理事／日本看護協会看護実践国際分類研究プロジェクト  
岡谷 恵子 ● Okaya Keiko

保健医療分野の情報化に向けた政策的取り組みが進み、電子カルテシステム導入による医療の質向上や効率化が期待されています。電子的情報の蓄積と活用的前提には、用語の標準化・コード化が不可欠です。しかし国内ではこれまで、看護用語の標準化は重視されてきませんでした。そのために喫緊の電子カルテ導入に際しては、個々の医療施設が独自に開発した看護用語集を使用せざるを得ない、という状況にあります。このままでは国内の医療施設が保有する貴重な看護データも互換性を欠くために有用性に乏しく、情報化がもたらすはずのメリットが看護領域には及ばないという事態も予想されます。

誰もが日本語を理解する小さな島国でも、実際に使われる看護の言葉は地方や臨床領域によって微妙に異なります。用語の標準化を進める中で、これまで使われてきた言葉を無理に放棄する必要はありません。標準となる用語を決め、標準化された用語と従来の用語との関係を明確にする作業が必要であり重要です。国際看護師協会の取り組み成果である ICNP (R) (International Classification for Nursing Practice／看護実践国際分類) は「ローカルの用語や既存の用語集あるいは分類とのクロスマッピングを促進する」<sup>1)</sup> ツールと言えます。各国の用語集を標準的用語集である ICNP (R) とクロスマッピングすることで、世界規模で看護データの比較も可能になると考えられています。統一のとれていない国内の看護用語集に互換性を持たせ、施設を超えてデータを蓄積し活用するのにも、ICNP (R) は有用だと言えるでしょう。

日本看護協会は国際看護師協会の会員として、ICNP (R) 開発に参加・協力しています。日本看護協会では 1997 年に看護実践国際分類研究プロジェクトを立ち上げました。近隣の韓国や台湾では早くから政府の資金援助を受けて ICNP (R) 研究が行われていました。日本は少し出遅れた感がありますが、2000 年度厚生科学研究費補助金「わが国における看護実践国際分類 (ICNP (R)) の妥当性と普及に関する研究」(主任研究者：岡谷恵子)<sup>2)</sup>、2001-2002 年度厚生労働科学研究費補助金「わが国における看護共通言語体系構築に関する研究」(主任研究者：上鶴重美)<sup>3)</sup> と 3 年間の研究補助金を得て、翻訳を始め、用語の妥当性検討、普及方法検討等に取り組むことができました。

2002 年に日本語版 ICNP (R) ベータバージョンを冊子<sup>4)</sup> とホームページ (<http://icnp.umin.jp/>) で公開したところ、非常に多くの方々から関心を寄せていただきました。国際看護師協会が 2002 年にベータバージョンの修正版としてベータ 2 バージョンを発表したことを受け、日本語版ベータバージョンの翻訳を見直しました。今回、訳語と定義の一部を修正・洗練したものを「ICNP (R) (看護実践国際分類) ベータ 2 (日本語版)」として本書にまとめました。より多くの日本の看護者が ICNP (R) を理解し、クロスマッピング作業を行い、不足している用語を指摘することで、国内外の看護データを比較可能にするツールとして ICNP (R) は発展することができます。国内で看護データを計画的に蓄積し活用するためにも、水準の高い日本の看護情報を世界に向けて発信するためにも、ICNP (R) を活用していただければ幸いです。

●参考・引用文献 -----

- 1) <http://www.icn.ch/icnp.htm>
- 2) 平成12年度厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）総括・分担研究報告書「わが国における看護実践国際分類の妥当性と普及に関する研究」主任研究者・岡谷恵子
- 3) 厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）総合研究報告書「わが国における看護実践国際分類の妥当性と普及に関する研究」主任研究者・上鶴重美
- 4) 総特集「ICNP（R）ベータバージョン〈日本語版〉」，インターナショナルナーシングレビュー，25（3），2002.